

# 令和4年度 学力向上指導改善プラン

三田市立八景中学校

学校教育目標		こころ豊かに健やかに 夢を抱いて未来を創造する生徒の育成 自ら学び 自ら考え 自ら行動				
推進主体		校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、図書館教育担当を中心として推進				
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						
学力の状況	4月	成果となる目標	具体的な行動目標	2～3月	年度末評価	評価
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)			
学力の状況	これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む)	○「漢字を読む」問題では正答率が全国のポイントよりも高く、言語事項に関する定着がみられる。また、「話すこと・聞くこと」の能力も、少しずつではあるが伸びている傾向がみられる。 ◆「書くこと」の領域においては苦手意識を抱えており、自分の考えをまとめて具体的に意見を書くことに課題がみられる。 ○「数と式」や「図形」の分野においては、基礎的基本的な内容の習得が概ねできている。 ◆テキストを読み解き、性質を見出したり問題解決の方法を説明するなど、数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。	○「生徒が主体的に取り組む学習指導～主体的、対話的な深い学びの研究～」を研究テーマとして、学習指導の工夫、授業改善に取り組む。 ○互見授業を計画的に行うと共に、普段の授業参観も活発に行うことで、成長し続ける意欲を持った教師集団を作る。 ○iPadの効果的な活用を目指して、授業研究および研修を行う。	○互見授業や授業研究を行い、「分かりやすい授業つくりのために」指導方法の工夫や改善に取り組んだ。 ○iPadの利用について定期的に研修会を持ち、授業などでの効果的な利用を増やしていくことができた。 ◆学校評価アンケートの「学習指導」の項目について、生徒の肯定的評価は93%だったものの、保護者は87%に留まった。家庭学習の充実へ向けてアプローチしていく必要がある。 ◆全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ学習において進んでいる一方、生徒同士の意見交換の場面では活用が進んでいない。アプリの使い方や効果的な使用場面などについて研究を重ねていきたい。	B	
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ◆基礎的基本的な内容については概ね理解しているが、応用力を必要としたり自分で論理的に考えて説明したりということに課題がみられる。 ◆効果的な家庭学習を行うために、自分で計画を立てて実行させると共に、補習や課題の提供を学校全体の取り組みとして充実させることで、生徒への支援を行う必要がある。	○学校評価アンケートで、「授業が分かりやすい」という肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。 ○全国学力・学習状況調査において、「自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の割合が70%以上 ○全国学力・学習状況調査において、「読書が好き」と回答する生徒の割合が、65%以上。 ○一日20分以上読書するという生徒の割合が60%以上。	○授業において「ねらい」を明確に示し、生徒が見通しをもって授業に取り組み、「自己評価」や「振り返り」を行うことができた。 ○「兵庫型学習システム」を国語、英語、数学で導入し、少人数で個々のつまづきに応じた指導を行った。また、「がんばりタイム」や放課後の「学習相談」で個々の課題によりそった学習支援を行い、基礎学力の定着を図った。 ○全国学力・学習状況調査では、「読書が好き」の割合は目標に達した。1、2年生で取り組んでいる朝読書が、読書に親しむきっかけになっていると考える。 ◆「自分で計画を立てて学習している」の肯定的評価が目標に届かなかった。学校の授業に対して肯定的な評価が高いことを考えると、「学ぶことと自分の将来を結び付けて考えさせる」「学習に見通しを持たせて粘り強く取り組ませる」「適切な課題を提供し評価する」指導が必要と考える。 ◆学習アンケートによると、30分以上読書する生徒の割合は低い。読書を活かした学習活動を充実させたり、日常的に本を読む環境づくりへむけて工夫したい。	B	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習態度で、真面目に取り組んでいる。多くの生徒は課題に前向きに取り組む、提出物への意識も高い。 ◆家庭での学習習慣に一定程度の定着がみられてきたが、継続的な取組みに課題が残る。日ごろから予習、復習に主体的に取り組めるようにする必要がある。	○地域ボランティアとの交流や生徒の地域貢献活動	○学校の情報や生徒の活動の様子を、通信や学校HP、メールなどを通して保護者や地域へ発信する。 ○家庭や地域との連携と協働により、地域の祭りや防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進する。 ○コミュニティスクールの取組を進め、生徒や教職員が地域ボランティアと交流・協働する体制の整備を行う。	○通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に知らせることができた。 ○学校評価アンケートの「開かれた学校づくり」「特色ある学校づくり」の項目では、肯定的評価の割合が生徒、保護者とも目標を上回った。 ○人数や時間の制限をしながらではあるが、学校行事やオープンスクールを通して保護者に学校生活を見てもらうことができた。 ○2年生のトライやる・ウィークは、地域で生徒自らが総合学習や体験したことの発表を行い、学校・生徒の活動を地域に発信した。 ○中学生が地域の活動に参加し、地域の人やボランティアと交流することができた。	A
生活学習向上等の係状況学習習慣・	学校評価などのアンケート調査やこれまでの全国学力・学習状況調査の質問紙の経年変化による児童・生徒の状況	○規則を守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけている生徒が大多数で概ね良好である。 ◆家庭学習の時間確保とともに、自分で計画を立てて取り組むことを習慣づける必要がある。 ○授業が分かりやすいという肯定的評価をする生徒の割合は90%以上である。 ◆失敗を恐れずに挑戦する生徒の割合は低いが、人の役に立ちたいと考える生徒の割合はとても高い。	○授業をはじめすべての教育活動を通して、成功体験につながる機会を増やす。 ○家庭や地域との連携と協働により、地域の祭りや防災訓練、奉仕活動等への中学生の参加を推進する。 ○小学校での学びを教職員で共有し、校内道徳・人権委員会を中心に、系統だった道徳の授業を行う。 ○各種調査およびアンケート、教育相談等で生徒の実態把握を行い、学習や生活に関わる不安や悩みの解消に努め、個々の生徒理解を図る。	○責任感をもって積極的に取り組む姿勢を育てるために、日々の委員・係活動、各行事等において、一人一役を担う教育活動を進めている。 ○全国学力・学習状況調査の結果では、「自分には良い所があると思う」「失敗を恐れなくて挑戦している」「人が困っている時は進んで助けている」「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的な回答の割合が目標に達し、昨年度と比較しても高くなった。自尊感情・自己肯定感が育ちつつある。 ○個々の悩みや不安に対して早期に対応できるよう、各学期に個別に教育相談を実施している。 ○3年ぶりに人権講演会を実施、LGBTQIについて生の声を聴くことができた。生徒が身近な問題として関心を高める機会になったと共に、保護者への啓発の場にもなった。	A	
校内研究・研修の状況	校内研究の状況	○「生徒が主体的に取り組む学習指導～主体的、対話的な深い学びの研究～」をテーマに、研究を推進している。 ◆「キャリア教育」と「特色ある学校づくり」を効果的に推進していくことが課題である。	○自分らしい生き方を実現する力を育てるキャリア教育の推進	○「トライやる・ウィーク」や「わくわくオーケストラ教室」の取り組みを充実させ、本物に出会う体験をもとに豊かな感性や自ら考えて行動する力を育てる。 ○キャリアノートを活用し、自己の将来を描くキャリアプランニング能力の育成を図る。 ○進路情報を提供する機会を増やす。	○体験活動の充実や進路情報のこまめな提供、キャリアノートの活用など具体的にキャリア教育を推進してきた。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、「夢や目標を持っている」と回答する生徒の割合が高くなり目標値を上回った。 ◆学校評価アンケートの「進路指導」の項目では、昨年度から肯定的評価の割合は大きく伸びている。その詳細を見ると、3年生が95%であるのに対して、1、2年生の割合は、さほど高くない。1年生から、働くことの意義や学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設けたり、体験活動や社会に触れる機会の充実を図る等、系統的にキャリア教育を推進して「基礎的・汎用的能力」を育てたい。	A
	校内研修の状況	○互見授業や授業研究を積極的に行うことで、教師が互いに学びあう体制を築き、校内全体でICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。 ◆iPadの活用について、どのような場面で、何を目的に活用するのか。更なる試行錯誤と検証を重ねながら、計画的に研修を進めていくことが課題である。	○学力向上・生活習慣改善についての小中連携の会議を年間5回以上実施する。 ○学校評価アンケートで、「学校生活は充実している」という肯定的評価の割合が昨年度を上回る。	○授業参観を含めた学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。 ○学習規律について小中学校で共通理解を図り、統一した指導を進める。 ○個々の児童生徒の課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。	○学校評価アンケートの「学校生活は充実している」の項目では、肯定的評価は昨年度と同様に高い水準だった。 ○学校園所連携連絡会だけでなく、必要に応じてこまめに連絡を取り合うなど、連携して対応できる体制づくりができてきた。 ○3年連続で6年生への体験授業はできなかったが、生徒会制作の中学校紹介動画を見てもらうなど、中学校入学に対する不安解消に努めた。	A
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	◆家庭・地域と連携して、放課後や夏休みを利用した学力補充を推進していく必要がある。	○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育の推進	○学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。 ○学校園所連携連絡会だけでなく、必要に応じてこまめに連絡を取り合うなど、連携して対応できる体制づくりができてきた。 ○3年連続で6年生への体験授業はできなかったが、生徒会制作の中学校紹介動画を見てもらうなど、中学校入学に対する不安解消に努めた。	A	
	小・中における教科連携等の状況	○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの連続性を大切にしたい取り組みを進めている。 ○子どもの「学びのすがた」や「育ちのすがた」を共通理解して、積極的な交流が行えている。				